

1. 発行者の略称(出版社名)
2 東書 15 三省堂 17 教出 38 光村
2. 調査研究の経過
7月 1日 第1回竹田地区教科用図書選定委員会 7月 23日 第2回竹田地区教科用図書選定委員会
3. 調査研究の観点
<b>【全教科(種目)共通観点】</b> 1. 単元・題材の構成及び内容の取扱い (1) 学習指導要領に示す目標を達成するために必要な教材を、どのように構成して、単元や題材が設定されているか。 (2) 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図るために、どのような工夫がなされているか。 (3) 思考力、判断力、表現力等を育む学習(言語活動等)が促されるよう、どのように示されているか。 (4) 学びに向かう力を育むために、どのような工夫がなされているか。 2. 資料等 ○資料・手引等は、生徒の自主的、自発的な学習が促されるよう、どのように示されているか。 3. 挿絵・図表・統計等 ○挿絵・図表・統計等はどのように示されているか。 <b>【各教科(種目)独自観点】</b> 4. 話すこと・聞くことの領域について (1) 資質・能力を身に付けるために、どのような言語活動が示されているか。 (2) 資質・能力の育成に関連させたICT機器の活用具体として、どのようなものが示されているか。
4. 選定委員会(専門研究員の調査・研究)についての意見、感想ほか

教科用図書 種目( 国語 ) 教科書会社 No( 2 )

発行者の番号・略称	番号	2			略称	東書																											
使用学年	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年																											
教科書番号	7 0 2	8 0 2	9 0 2	-	-	-																											
項 目	所 見																																
教 科 共 通	1. 単元題材の構成及び内容の取扱い	<p>○各学年、各領域の教材数は次の通りである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>領域</th> <th>1 年</th> <th>2 年</th> <th>3 年</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>話す・聞く</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>書く</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>読む</td> <td>18</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>知識・技能</td> <td>20</td> <td>19</td> <td>16</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table> <p>○知識・技能を身に付けるために「日本語探検」として、語句や語彙等を学ぶ教材が位置付けられている。また、各教材末において「言葉の力」で身に付けるべき知識・技能が示されている。</p> <p>○思考力・判断力・表現力を身に付けるための問いや活動が教材末「てびき」の中で示されている。</p> <p>○学びに向かう力を育むために、各単元の「見通す」で目標の確認、「振り返る」で学んだことや今後の学習でも活用する内容が示されている。</p>							領域	1 年	2 年	3 年	合計	話す・聞く	3	3	3	9	書く	5	5	4	14	読む	18	17	17	52	知識・技能	20	19	16	55
	領域	1 年	2 年	3 年	合計																												
	話す・聞く	3	3	3	9																												
書く	5	5	4	14																													
読む	18	17	17	52																													
知識・技能	20	19	16	55																													
2. 資料等	<p>○巻末資料には、要約の仕方、話し合いの方法、思考のヒント、各単元で身に付けたい力の一覧などがある。</p> <p>○二次元コードが付されている教材数は次の通りである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1 年</th> <th>2 年</th> <th>3 年</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二次元コード数</td> <td>28</td> <td>27</td> <td>22</td> <td>77</td> </tr> </tbody> </table>								1 年	2 年	3 年	合計	二次元コード数	28	27	22	77																
	1 年	2 年	3 年	合計																													
二次元コード数	28	27	22	77																													
3. 挿絵・図表・統計等	<p>○説明的文章と関連して取り上げられている図表や写真、統計資料数は次のとおりである。(写真は含まない)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1 年</th> <th>2 年</th> <th>3 年</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>資料数</td> <td>2</td> <td>13</td> <td>8</td> <td>23</td> </tr> </tbody> </table>								1 年	2 年	3 年	合計	資料数	2	13	8	23																
	1 年	2 年	3 年	合計																													
資料数	2	13	8	23																													
教 科 独 自	4. 話すこと・聞くことの領域について	<p>○「話すこと・聞くこと」の言語活動として、以下のものが設定されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年「インタビュー・スピーチ・グループディスカッション」</li> <li>・2年「メモを基にした話し合い・プレゼンテーション・リンクマップによる話し合い」</li> <li>・3年「話し合いの展開や相手の主張を評価しながら聞く・場面に応じたスピーチ・合意形成を目指した話し合い」</li> </ul> <p>○「話す・聞く」の領域のみで単元が構成されている。</p> <p>○ICTについては二次元コードを読み取ると、教科書では省略されている話し合いやスピーチ原稿などが収められており、動画も見ることができる。</p>																															
5. まとめ (特色及び総合所見)		<p>○「話すこと・聞くこと」では、どの単元でも完成された発表原稿が全て載っているため、モデルが提示されていてわかりやすい。一方で、生徒自身の考えや発表の工夫が広がりにくい。</p> <p>○「読むこと」の教材に重きを置いており、他領域の教材の数が少なめである。</p> <p>○デジタル資料の中に「言葉を広げよう」というコンテンツがあり、言葉の例文と意味を見ることができる。</p>																															

教科用図書 種目( 国語 ) 教科書会社 No( 1 5 )

発行者の番号・略称	番号	1 5			略称	三省堂	
使用学年	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年	
教科書番号	702	802	902	-	-	-	
項 目	所 見						
教 科 共 通	1. 単元・題材の構成及び教材の取扱い	○各学年、各領域の教材数は次の通りである。					
		領域	1 年	2 年	3 年	合計	
		話す・聞く	4	4	5	1 3	
		書く	6	6	4	1 6	
読む	1 5	1 6	1 5	4 6			
知識・技能	7	7	7	2 1			
		○知識・技能を身に付けるために単元末に「語彙を豊かに」や「思考の方法」の中に、教材に関連する語句や表現、情報の整理分類の仕方がまとめられている。					
		○思考力・判断力・表現力を身に付けるための問いや活動が、「読み方を学ぼう」や「言語活動のポイント」に示されている。					
		○学びに向かう力を育むために、「読む」教材では「学びの道しるべ」として、学習の目標や学習活動の例、振り返りの視点が示されている。					
2. 資料等	○巻末資料には、日本文学作品集、メモの活用方法、質問の仕方、文章の読み方に係るポイント一覧などがある。						
	○二次元コードが付されている教材数は次の通りである。						
			1 年	2 年	3 年	合計	
		二次元コード数	2 5	2 7	2 1	7 3	
3. 挿絵・図表・統計等	○説明的文章と関連して取り上げられている図表や写真、統計資料数は次のとおりである。(写真は含まない)						
				1 年	2 年	3 年	合計
		資料数	8	1 4	7	2 9	
教 科 独 自	4. 話すこと・聞くことの領域について	○「話すこと・聞くこと」の言語活動として、以下のものが設定されている。					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 年「グループディスカッション・スピーチ・本の紹介・新聞作成の編集会議」</li> <li>・ 2 年「グループディスカッション・プレゼンテーション・ビブリオバトル・情報誌作成の編集会議」</li> <li>・ 3 年「グループディスカッション・パブリックスピーキング・名言集作成の編集会議」</li> </ul>					
		○他領域と関連させた指導が多い。					
		○ICT による話し合いのモデル例や改善した前後のものがあり、課題に気づかせやすい。					
5. まとめ (特色及び総合所見)	○他領域と関連させた単元が多いため、評価が難しいものがある。						
		○知識、技能を扱う教材が極端に少ない。					

教科用図書 種目( 国語 ) 教科書会社 No( 17 )

発行者の番号・略称		番号			略称		教出																										
使用学年		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年																										
教科書番号		702	802	902	-	-	-																										
項 目		所 見																															
教 科 共 通	1. 単元・題材の構成及び教材の取扱い	<p>○各学年、各領域の教材数は次の通りである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>領域</th> <th>1 年</th> <th>2 年</th> <th>3 年</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>話す・聞く</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>書く</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>読む</td> <td>17</td> <td>18</td> <td>20</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>知識・技能</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table> <p>○知識・技能を身に付けるために、教材末の二次元コードを読み取ると「この教材で学ぶ言葉」として身に付けさせたい語句が一覧で示されている。また、学習活動の前の「学びナビ」において、その教材で身に付けるべき知識・技能の項目が示されている。</p> <p>○思考力・判断力・表現力を身に付けるための問いや活動が、教材末「みちしるべ」に示されている。</p> <p>○学びに向かう力を育むために、学習活動の前に「学びナビ」として、学習内容の解説や学習を進める際のヒントが掲載されている。</p>							領域	1 年	2 年	3 年	合計	話す・聞く	4	4	5	13	書く	5	5	4	14	読む	17	18	20	55	知識・技能	10	10	10	30
	領域	1 年	2 年	3 年	合計																												
	話す・聞く	4	4	5	13																												
書く	5	5	4	14																													
読む	17	18	20	55																													
知識・技能	10	10	10	30																													
2. 資料等	<p>○巻末資料には、「話す・聞く」「書く」「読む」の学習方法の一覧、面接の仕方、近代文学史年表などがある。</p> <p>○二次元コードが付されている教材数は次の通りである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1 年</th> <th>2 年</th> <th>3 年</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二次元コード数</td> <td>20</td> <td>22</td> <td>17</td> <td>59</td> </tr> </tbody> </table>								1 年	2 年	3 年	合計	二次元コード数	20	22	17	59																
	1 年	2 年	3 年	合計																													
二次元コード数	20	22	17	59																													
3. 挿絵・図表・統計等	<p>○説明的文章と関連して取り上げられている図表や写真、統計資料数は次のとおりである。(写真は含まない)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1 年</th> <th>2 年</th> <th>3 年</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>資料数</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table>								1 年	2 年	3 年	合計	資料数	6	6	0	12																
	1 年	2 年	3 年	合計																													
資料数	6	6	0	12																													
教 科 独 自	4. 話すこと・聞くことの領域について	<p>○「話すこと・聞くこと」の言語活動として、以下のものが設定されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生「インタビュー・自己紹介・スピーチ・テーマについての話し合い・スピーチや意見文の聞き取り」</li> <li>・2年生「立場を踏まえた話し合い・プレゼンテーション・相違点を明確にしてスピーチを聞く」</li> <li>・3年生「スピーチ・評価しながらスピーチを聞く・テーマに沿って対話する」</li> </ul> <p>○ICTについては二次元コードを読み取ると、解説文や資料を見ることができる。(動画は収められていない)</p>																															
5. まとめ (特色及び総合所見)		<p>○SDGs を全ての教材と関連させている。</p> <p>○全体的に色味が薄く、ポイントとなる部分が見えにくい。</p> <p>○見開きの左右で異なる単元を扱うページがあり、生徒が単元の始まりをつかみにくい。</p>																															

教科用図書 種目( 国語 ) 教科書会社 No( 38 )

発行者の番号・略称	番号	38			略称	光村	
使用学年	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年	
教科書番号	702	802	902	-	-	-	
項 目	所 見						
教 科 共 通	1. 単元・題材の構成及び教材の取扱い	○各学年、各領域の教材数は次の通りである。					
		領域	1 年	2 年	3 年	合計	
		話す・聞く	7	6	6	19	
		書く	13	10	7	30	
読む	20	21	23	64			
知識・技能	23	22	20	65			
○知識・技能を身に付けるために、巻末資料の「語彙ブック」や「情報整理・思考のレッスン」のなかに、関連する言葉や情報整理の仕方がまとめられている。							
○思考力・判断力・表現力を身に付けるための問いや活動が、「学びのカギ」や、思考を促す話型に示されている。							
○学びに向かう力を育むために、「学習への扉」の中に、学習の目標や学習活動の例、振り返りの視点が示されている。							
教 科 独 自	2. 資料等	○巻末資料には「話す・聞く」「書く」「読む」の学習方法一覧、表現のテーマ集、ICT活用のヒントなどがある。					
		○二次元コードが付されている教材数は次の通りである。					
			1 年	2 年	3 年	合計	
二次元コード数			41	39	33	112	
教 科 共 通	3. 挿絵・図表	○説明的文章と関連して取り上げられている図表や写真、統計資料数は次のとおりである。(写真は含まない)					
			1 年	2 年	3 年	合計	
資料数			17	15	3	35	
教 科 独 自	4. 話すこと・聞くことの領域について	○「話すこと・聞くこと」の言語活動として、以下のものが設定されている。					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生 「朗読や感想の発表・スピーチ・インタビュー・展開を捉えて話し合う」</li> <li>・2年生 「プレゼンテーション・インタビュー・立場を決めて討論する」</li> <li>・3年生 「スピーチ・相手の意見を聞いて判断する・テーマに沿って対話する・合意形成を目指した話し合い」</li> </ul>					
○ICTについては、二次元コードを読み取ると、字幕付きの「話す・聞く」活動の動画や、動画を見ながら自分ならどう話すかという意見を考える内容のものもある。そのほかにも表現のテーマ例などの資料を見ることができる。							
5. まとめ (特色及び総合所見)	○教科書の単元の構成が「学習の流れ→学習事項のポイント→具体例を用いて学びをイメージ化」の流れで統一されており、生徒が学ぶ内容を把握しやすい。						
	○一単元一領域で教材が設定されているため、付きたい力が明確になり、評価の観点を設定しやすい。						
	○「語彙ブック」や、「言の葉ポケット」などは語彙の指導に使いやすい。						